

実施報告書

HT26246 唇の動きを解析！読唇できる？



開催日：平成26年8月3日(日)

実施機関：九州工業大学
(実施場所) (情報工学部 インタラクティブ
学習棟 MILAiS)

実施代表者：齊藤 剛史
(所属・職名) (大学院情報工学研究院システム
創成情報工学研究系・准教授)

受講生：高校生12名

関連 URL：<http://www.iizuka.kyutech.ac.jp/hirameki/>

【実施内容】

1. プログラムの留意・工夫点

全ての参加者が発話シーンの動画像を視聴できるように、プロジェクタ・スクリーンが多く整っている本学インタラクティブ学習棟MILAiSを利用した。また各参加者が自由に再生して発話内容を検証するためにMILAiSにあるiPad2を全参加者に配布して利用した。

本プログラムは「読唇」を取り上げている。読唇は日常生活で耳にする用語であり、どのようなものが推測可能である。しかし、実際にはどれくらい難しいのか、どのような人が利用しているのかを学ぶ機会が少ない。そこで本プログラムは、体験を多く取り入れることで、参加者に読唇を理解してもらう工夫を取り入れた。

参加者同士の読唇実験、障害者のコミュニケーション支援機器の一部は体験は二人一組で取り組ませ、また数量が少ないコミュニケーション支援機器については全参加者を二組に分けた。全参加者が体験することが大切であり、体験時間を多く設けた。

独自に考案した口唇写真を複数枚利用し、参加者に分類作業などを体験させることで、目視による分類に取り組み、それと計算機による分類を関連付けて説明した。

2. 当日のスケジュール

- 10:00～10:30 受付
- 10:30～11:00 開講式
- 11:00～12:00 講義「機械読唇技術って何？読唇を体験してみよう」
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～13:45 講義&実習「コミュニケーション支援機器の体験」
- 13:45～14:30 講義&実習「読唇できる？パズルを利用してチャレンジしよう」
- 14:30～15:00 休憩およびフリーディスカッション
- 15:00～15:30 講義「機械読唇技術の総括」
- 15:30～16:00 修了式

3. 実施の様子

- ・内容に応じて二人一組、あるいは全体を2グループに分けて実習を行った。
- ・口唇写真の分類作業などをグループワークで実施した。



iPadを利用した発話シーン確認



透明文字盤の体験実習



レッツ・チャットの体験実習



口唇写真の分類実習

4. 事務局との協力体制

- ・事務局会計課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。
- ・事務局研究協力課が振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正を行った。
- ・情報工学研究院広報室、広報委員会との連携で広報や実施を行った。
- ・情報工学部総務係との連携で書類作成、物品購入、謝金などの手続きを行った。

5. 広報活動

他プログラム及び、情報工学研究院広報室との連携により以下の広報を行った。

- ・高校や高専へのポスター掲示および高校訪問時の案内
- ・西日本新聞への広告
- ・オープンキャンパス（7月19日・20日開催）での広報
- ・福岡県内の公立、私立高校へのチラシ、ポスターの郵送
- ・大学HPでの告知
- ・各種ポータルサイトでの告知

6. 安全配慮

- ・3名の実施協力者（大学院生）が安全確保を手助けした。
- ・参加者を3テーブルに分け、十分な広さを確保した。
- ・参加者と実施協力者（大学院生）は短期のレクリエーション保険に加入した。
- ・その他の実施者については大学が加入している保険が適用される。

7. 今後の発展性、課題

- ・初めての取り組みであるが、様々な工夫を取り入れることで参加者が関心をもてるように整えた。
- ・通常では体験できないことを実施することで参加者への関心を高めることができたと感じた。
- ・実習の時間配分および先端技術の紹介が十分でなかったため、今後は改善したい。

【実施分担者】

安永卓生 大学院情報工学研究院生命情報工学研究系・教授

【実施協力者】 3 名

【事務担当者】
成田 麻紀 研究協力課研究協力係